

平成30年度の研究及び研究事業計画について

未来を拓く国語教育の創造

— 主体的・対話的で深い学びが育つ単元作り —

1 研究主題について

東京都小学校国語教育研究会では、時代の要請に応じて研究主題を設定し、先進的な国語教育の研究に努めてきた。新学習指導要領に向けての答申により、今後の教育の方向性が示されたことを受け、27年度より、研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とし、研究に取り組んできた。「未来を拓く」とは、国語科において児童が主体的・協働的な言語活動を通し、豊かな言葉の力を育て、さらに、他教科の学習や日常生活に生かしていく豊かな言語生活者としての言葉の力を育てることである。つまり、「言葉を学び、その力を活用する児童が育つ」ことを意味している。

新学習指導要領の基本方針を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくためには、本会が研究の核に据え取り組んできた「単元作り」を一層進めていくことが必要と考え、引き続き研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とし、研究副主題を「主体的・対話的で深い学びが育つ単元作り」とし、平成29年度、平成30年度の2年間を継続して研究を進めることとした。今年はその2年目にあたる。

新学習指導要領が告示され、今回の改訂で目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。30年度は、移行期間であることを踏まえつつも、新学習指導要領に則り、知識技能の確実な習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力や人間性等の涵養が偏りなく実現していくことが重要となり、国語科においても、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら次のような視点での授業改善を行う。

◆「主体的な学び」の視点

学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習を設定するなど、子供自身が主体的に取り組める学習過程、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定するなど、学ぶ意欲が高まる学習を工夫する。

自分の学びの変容を自覚し、説明したり評価したりできるようになることが重要。

◆「対話的な学び」の視点

子供同士、子供と教職員・地域の人と議論したり協議したりすることや、本の作者の考えを自分の考えに生かす事などを通して、互いの知見や考えを広げ深める言語活動を設定することが重要である。児童同士、児童と教職員や地域の人々などが互いの知見を伝え合ったり議論したり協議したりすることや、書物等先哲の考え方を手掛かりに考えことなどを

通じて、自己の考えを広げ深める。

◆「深い学び」の視点

「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けること。その際、自分の思考をたどり、独創的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面から問い直し考えを深めることが重要であり、語彙の豊かさが重要である。

2 研究主題に迫る観点

研究2年目の今年は移行期間であることを踏まえつつ、新学習指導要領に則り、研究を進める。研究を進めるにあたっては、次の観点について、各部の領域の特性に応じて具体的に内容を設定し、研究を深めていく。

(1) 単元作りの工夫と柔軟な学習過程

- 他教科及び多様なカリキュラムと関連した単元構成
- 実生活に根ざした題材の単元作り
- 児童の実態を多面的な視点から分析的に把握し、児童主体の単元作り
- 豊かな語彙の獲得を目指す単元作り
- 児童の実態と単元で身に付けさせたい力を明確にした学習過程
- 適切な言語活動を設定した学習過程

(2) 児童の学びの向上につながる評価と指導

- 個の学習状況に応じた評価
- 自分の学びの変容を自覚できる振り返りの工夫

3 研究に関わる事業計画

(1) 研究大会事業

- ①都小国研総会・講演会・研究総会
- ②都小国研多摩地区研究会 総会・研究大会
- ③都小学校国語教育研究会

(2) 研究調査事業

- ①都小国研まなび塾（本年度12年目）
多摩まなび塾（本年度9年目）
- ②研究各部の定例研究会（「大会」に対して「小研」という）
- ③研究各部の研究活動
- ④地域の研究活動への協力

(3) 研究成果刊行事業

- ①機関誌の発行 「国語教育」 第213号、第214号
- ②研究紀要の発行 第40号（平成31年2月22日 第29回研究大会研究紀要）